

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-174655

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月30日

(51) Int.Cl.⁶
A 4 7 J 36/06

識別記号

F I
A 4 7 J 36/06

A

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-357433

(22) 出願日 平成8年(1996)12月6日

(71) 出願人 597009574

咋野 公子

312 茨城県ひたちなか市大字高場1203

(72) 発明者 咋野 公子

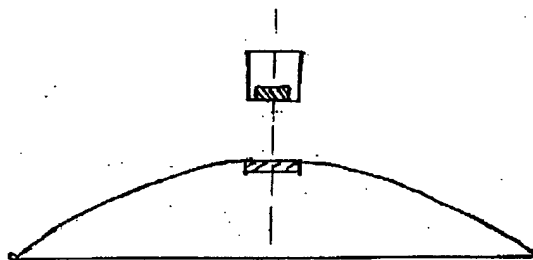
茨城県ひたちなか市高場1203

(54) 【発明の名称】 鍋蓋つまみを着脱式にした鍋蓋

(57) 【要約】

【課題】 鍋蓋のつまみを鍋蓋の頂部からの取り離しを可能にし、鍋蓋を収納する時は、つまみを鍋蓋の裏側に装着して、鍋蓋を複数重ねられるようにして、台所の整理整頓を容易にする鍋蓋を提供する。

【解決手段】 鍋蓋の製造工程で、鍋蓋(1)とつまみ(2)にそれぞれ磁石(3a)(3b)を取り付け、鍋蓋(1)の磁石(3a)にはカバー(4)を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 鍋蓋（1）の頂部に磁石（3a）を埋め込みカバー（4）で被覆しつまみ（2）の下端部に磁石（3b）を設け、つまみ（2）を鍋蓋（1）に着脱自在にしたことを特長とする鍋蓋つまみを着脱式にした鍋蓋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は鍋蓋つまみを、着脱式にした鍋蓋に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来はつまみ部が蓋に固定されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これは次の様な欠点があった。

（イ）従来の鍋蓋の蓋のつまみは凸状態である上、固定した状態であった為つまみが邪魔になり不安定で重ねることは出来なかった。

（ロ）（イ）の理由に依り、鍋蓋の整理する上で扱いづらかった。

（ハ）鍋と蓋を別個に整理する為には、鍋を重ねられても蓋の方は整理用の専用ホルダーを必要とした。

本発明は、以上の欠点を解決するためになされたもので台所の整理を容易にすることを目的とする台所に関するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】鍋蓋（1）の頂部に磁石（3a）を埋め込みカバー（4）で被覆し、つまみ（2）の下端部に磁石（3b）を設け、つまみ（2）を鍋蓋（1）に着脱自在にする。本発明は、以上の構成によりなる、鍋蓋つまみを着脱式にした鍋蓋である。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。鍋蓋（1）頂部と、つまみ（2）の底部に、それぞれ磁石（3a）（3b）を設け磁石（3a）の表面

には、カバー（4）を被覆するこの際被覆する材質が鍋蓋本体の材質であるアルミニウムであっても不都合が生じる事はない。（イ）使用時は、

【図1】の様につまみ（2）の磁石（3b）を鍋蓋（1）の磁石（3a）に重ね合わせ装着し使用するものである。（ロ）通常使用形態は、（イ）で述べた使用形態の為使用に当たっては従来の使用と何ら変わる事はない。（ハ）つまみ（2）は、手で簡単に外す事が可能であるため、収納時は取り外して鍋蓋の内側に

10 【図4】の様に装着する事で、鍋蓋の頂部の凸型状態であったつまみ部分が扁平となり鍋蓋を

【図3】の様に安定した状態で収納が可能となる。

（ニ）本発明により、鍋蓋整理専用のホルダーを必要としなくなる。（ホ）つまみを外した蓋を上向きに置く事で、

【図5】の様に料理の材料を準備するの為の材料等を載せるプレートととして使用することができる。

【0006】

【発明の効果】本発明によって、鍋と蓋を別々に重ねて収納することで整理整頓が容易になる上鍋蓋を皿の様にプレートととして使用できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一部断面側面図である。

【図 2】本発明の分解一部断面側面図である。

【図 3】本発明の使用状態を示す一部断面側面図である。

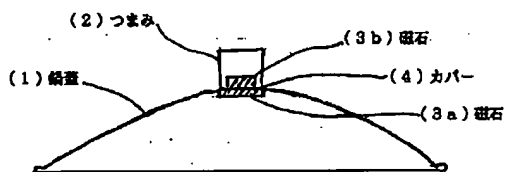
【図 4】本発明の使用状態を示す側面図である。

【図 5】本発明の使用状態を示す絵図である。

【符号の説明】

- （1） 鍋蓋
- （2） つまみ
- （3a） 磁石
- （3b） 磁石
- （4） カバー

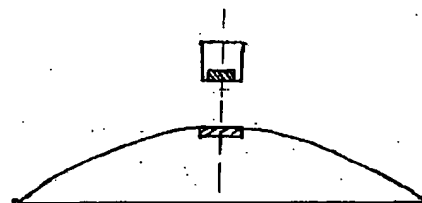
【図 1】



【図 4】



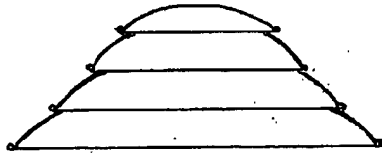
【図 2】



(3)

特開平10-174655

【図 3】



【図 5】

